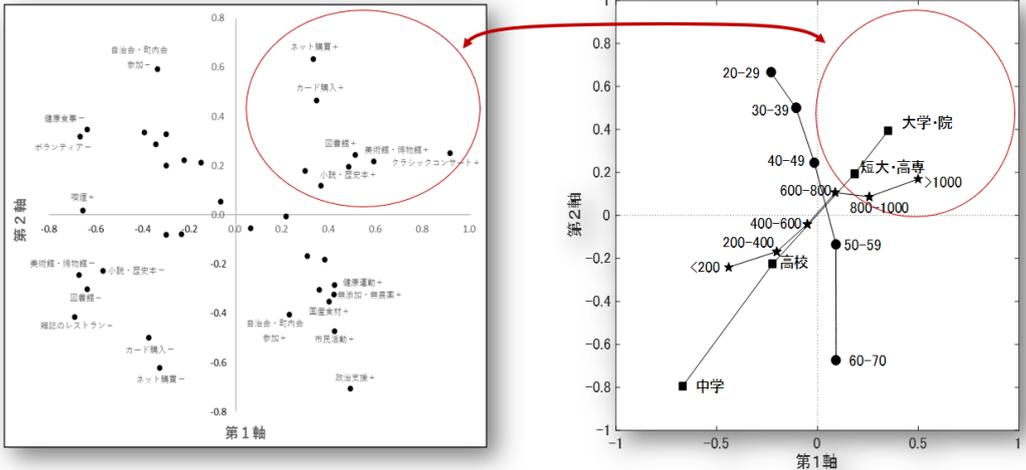


<p>データサイエンス</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 障がい者支援に関する社会学的研究</p> <p>□ 人々のライフスタイルに関する社会学的研究</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会学 ■ 社会調査 ■ 保健医療社会学 ■ 障害学 	<p>■ 要約</p> <p>社会学、社会調査の経験のもと、人々の意識や行動について統計的に検討する研究を行ってきました。主に、障がいのある人への支援や、人々のライフスタイルについて、社会調査(アンケート調査やインタビュー調査)から得たデータをもとに研究しています。</p> <p>■ 研究経歴</p> <p>私の専門分野は、社会学および社会調査にあります。社会学では、個人の社会上の地位や家族構成、居住地域などをもとに、人々の意識や行動を推測することが一般的な研究目的となります。そのような研究を行うには、通常、アンケート調査やインタビュー調査といった個人々人を対象とする調査＝社会調査を行い、対象者から様々なデータを収集する作業が必要となります。</p> <p>これまでの私の主要な研究テーマは、①障がいのある人への支援に関する研究、②個人のライフスタイルに関する研究となります。①の研究では、自治体との共同関係を結び、障がいのある成人の方や家族の方を対象とするアンケート調査やインタビュー調査を行ってきました。その他にも、障がいのある幼児を育てるご家族に注目したアンケート調査なども実施しました。いずれの調査も、ご本人やご家族が地域社会で様々な生きがたさを感じながら日々の生活を送り、時には、障がい者差別といった負の経験をされていることを示していました。②の研究では、日本で代表的な社会調査となる「社会階層と社会移動に関する全国調査(SSM調査)」に参加し、全国規模の個人データを用いた人々のライフスタイルに関する検討をしています。例えば、下の図では、クラシック音楽や美術鑑賞は、高い階層の人に嗜まれているといった傾向を提示しています。</p> <p>以上のように、私の研究は“人”にフォーカスを当てたものとなります。近年、統計データなどの根拠をもとに、物事を決定する取り組み(Evidence-based Policy Making: EBPM)が推奨されていることを踏まえると、社会学、社会調査のようなデータ分析は大きく寄与するよう思われます。</p>
	
<p>堀 兼大朗 Kentaro Hori</p>	
<p>データサイエンス学部 講師</p>	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年3月 中京大学現代社会学部卒業 ・2017年3月 中京大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程(修了) ・2019年～2020年 日本学術振興会特別研究員PD 	
<p>【主な社会的活動】</p> <p>所属学会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本社会学会 ・保健医療社会学 ・家族社会学会 ・教育社会学 	
<p>【research map】</p> <p>https://researchmap.jp/kentaro-hori-soc</p> 	
	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>地域の発展やニーズにお応えできる共同調査を行いたいと考えています。とくに、人を対象とするアンケート調査につきましては興味がありますので、なんなりとご相談ください。</p>